Ⅲ-2 運輸業

1 鉄道

鉄道旅客数の対前年度比伸び幅は縮小
北陸新幹線などの新規開業に伴う動向が活発化
各社特色のある鉄道の運行による新規収入源を探る

(1) 2014年度の鉄道旅客数

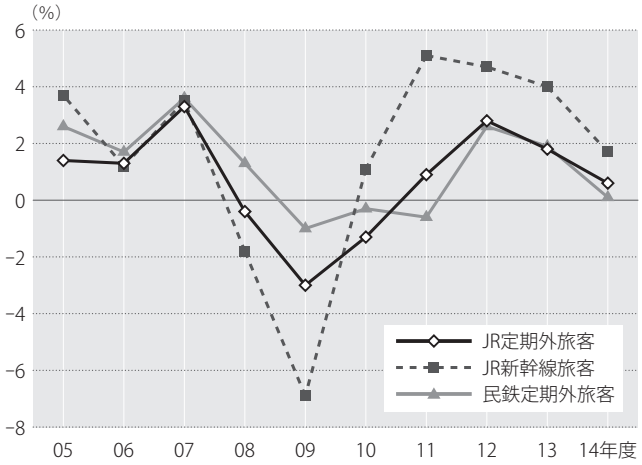
●旅客数の推移

14年度の鉄道旅客数は、JRの定期外旅客が35億3,704万人（前年度比0.6%増）、新幹線旅客（定期・定期外計）は3億3,992万人（同1.7%増）、JR以外の民鉄の定期外旅客は64億4,579万人（同0.1%増）と、いずれも前年度を上回っているが、伸び幅は縮小した（図Ⅲ-2-1-1）。

●特定シーズンのJR旅客輸送動向

JR旅客6社の主要45区間の特急・急行列車利用者数（新幹線を含む）について、14年ゴールデンウイーク（以下、GW〔4月25日～5月6日〕）はいずれも前年の利用者数を下回った。一方、夏期（7月25日～8月17日）は、東日本旅客鉄道株式会社（以下、JR東日本）、東海旅客鉄道株式会社（以下、JR東海）、九州旅客鉄道株式会社（以下、JR九州）で前年を上回った。14～15年年末年始（12月26日～1月4日）と15年GW（4月24日～5月6日）は、全社で対前年を上回る結果となった（表Ⅲ-2-1-1）。

図Ⅲ-2-1-1　鉄道旅客数の推移（前年度比）



資料：国土交通省「鉄道輸送統計調査」「国土交通月例経済」

(2) 新幹線などの開発動向

●北陸新幹線の開業および関連動向

15年3月に北陸新幹線の長野～金沢間が延伸開業したことで、東京～富山間が最短2時間8分、東京～金沢間が最短2時間28分で結ばれることとなった。開業に先立ち、JR金沢駅では構内の土産物店と飲食店エリアが「金沢百番街」としてリニューアル・オープン、JR富山駅では高架下の「きときと市場とやマルシェ」、路面電車西側の「クラルテ」がオープンした他、新幹線高架下に富山市電の停留所を設置するなど、沿線各駅では、観光客の受入態勢強化に向け、商業施設のリニューアルなどの整備が進んだ。

また、北陸新幹線開業に伴い、JR信越本線・JR北陸本線の在来線のうち、総延長290kmが第三セクター鉄道に移管され、えちごトキめき鉄道、あいの風とやま鉄道、IRいしかわ鉄道が開業した。北越急行は、首都圏と北陸を結ぶ役割を北陸新幹線に譲った特急「はくたか」に代わり、越後湯沢～直江津間を結ぶ超快速「スノーラビット」の運行を開始した。富山地方鉄道は、新規観光需要を見込んで「レトロ電車」の運行を開始した。

●北海道新幹線開業に向けた動き

15年度末に予定されている北海道新幹線、新青森～新函館北斗間での開業に伴い、同線木古内駅のある北海道木古内町と奥津軽いまべつ駅が開業する予定の青森県今別町の両町で

表Ⅲ-2-1-1　特定シーズンのJR旅客輸送動向

単位：千人（対前年）

会社名	14年GW	14年夏期	14～15年年末年始	15年GW	備考
JR北海道	289（88%）	730（98%）	335（101%）	310（100%）	主要4線区（本州、函館、旭川、釧路の各方面）
JR東日本	4,417（97%）	10,227（101%）	4,351（101%）	4,991（108%）	主要17線区（15年GWは主要16線区）
JR東海	3,632（98%）	8,134（101%）	3,868（104%）	4,230（107%）	主要8線区
JR西日本	2,387（96%）	5,405（98%）	2,768（101%）	2,999（118%）	主要10線区
JR四国	134（95%）	267（88%）	139（101%）	152（106%）	主要3線区
JR九州	803（99%）	815（101%）	780（104%）	878（103%）	主要3線区　夏期はお盆期間のみ

注：15年GW前年比については、前年数値による計算上の比率に相違があるが、各社発表の数値を掲載した。

資料：各社ホームページをもとに（公財）日本交通公社作成

は、町の魅力をアピールするため、「日本一小さい新幹線のまちキャンペーン」として、北海道新幹線の往復チケットや特産品の詰め合わせが当たるクイズキャンペーンや木古内駅新幹線観光駅長に就任した木古内町のキャラクター「キーコ」を用いた各種イベントを実施した。

●リニア中央新幹線の開発動向

27年の開業を目指すリニア中央新幹線について、国土交通省は14年10月に、JR東海に対して東京～名古屋間の工事実施計画・着工を認可し、12月には起工式が行われた。15年4月には、「山梨リニア実験線 高速域走行試験」にて、最新型車両L0（エルゼロ）系が、鉄道の有人走行として世界最速の時速603㎞を記録した。また、時速600㎞以上の走行で10.8秒間を記録した。

●上野東京ラインの開通

15年3月には上野東京ラインが開通し、「宇都宮線」「高崎線」「常磐線」から東京駅・品川駅へ、「東海道線」から上野駅への直通アクセスが可能となった。

（3）鉄道関連の主な動向

●震災からの復興状況

11年3月に発生した東日本大震災で被災した岩手県の三陸鉄道は、14年4月、不通区間だった南リアス線の吉浜～釜石間（15km）と北リアス線の小本～田野畑間（10.5km）の運転が再開され、全線で運行が再開された。北リアス線では「三陸の技まるごと博物館」をテーマとした新型車両「新お座敷車両（36-Z1形）」の運行を開始した。同車両では、車内に岩手県伝統工芸品の展示スペースを設置した他、岩手の古民家をイメージした茶色の外装としている。南リアス線でも新型車両「新レトロ車両（36-R3形）」を導入し、祝日などでの運行や貸切車両としての運行を開始した。

また、宮沢賢治『銀河鉄道の夜』のモデルとなったJR釜石線では、14年4月から花巻～釜石間を土日の2日かけて往復する「SL銀河（C58形）」の運行を開始した。

15年3月にはJR石巻線全線で運転再開、同5月にはJR仙石線全線復旧に合わせ、JR仙石東北ラインが開業した。

●消費税引き上げに伴う運賃変更

14年4月1日から消費税率が8％に引き上げられ、JR東日本や関東の私鉄大手などでは、ICカード利用時に限って1円刻みの値上げを実施した（切符購入の際は10円単位の運賃）。一方、北海道・東海・西日本・四国・九州のJR各社、関西の私鉄大手、名古屋鉄道、西日本鉄道などでは、ICカード、切符ともに10円単位の値上げを行った。

（4）観光資源としての鉄道の活用

●観光列車の動向

14年度も各地で観光列車の運行開始が相次いだ。移動手段としての列車だけでなく、地域性を捉えたデザインやサービスが重視され、乗車自体の目的化、列車の観光資源化の動きが進んでいる。

14年5月よりJR東日本新潟支社が上越妙高～十日町間で運行を開始した「越乃Shu*Kura（コシノ シュクラ）」は、豊かな地酒文化のある新潟の「酒」をコンセプトとした観光列車である。ユニークな車名は、越後の酒蔵と豊かな自然をイメージして命名され、「越乃」は「越後」、「Shu」は「酒」、「Kura」は「蔵」、「*」は「米・雪・花」を表している。3両編成で、1号車は旅行商品専用車両、2号車はイベントスペース、3号車は一般旅客車両となっている。車内では、厳選された新潟県内の地酒の利き酒や地元食材にこだわったつまみの他、ジャズやクラシック奏者による生演奏や酒に関するイベントなどを楽しむことができる。なお、日によって上越妙高～越後湯沢間を運行する「ゆざわShu*Kura（ユザワ シュクラ）」、上越妙高～新潟間を運行する「柳都Shu*Kura（リュウト シュクラ）」の計3列車が設定されている。

14年7月には、しなの鉄道が軽井沢駅と長野駅を結ぶ観光列車「ろくもん」の運行を開始した。車内には長野県産の木材が多く用いられ、沿線の景観を楽しみながら、地域の歴史・文化を感じられる食事を提供している。

同7月には大井川鐵道が、「きかんしゃトーマス」の意匠をまとったSL列車の運行と「トーマスフェア」を開始した。イギリスでは「Day out with Thomas」として以前から実施されているが、アジアでは初めての試みとなった。

同7月より四国旅客鉄道株式会社が松山～伊予大洲・八幡浜間で運行を開始した観光列車「伊予灘ものがたり」は、伊予灘の夕日を連想させる「茜（あかね）色」（1号車）と、太陽や柑橘（かんきつ）類の輝きを表す「黄金色」（2号車）を基調とした配色とし、土日・祝日を中心に1日4便運行している。伊予大洲～西大洲間の大洲城では、職員の掛け声に合わせて、観光客が「伊予灘ものがたり」に向かってのぼり旗を振るなど、列車内だけでなく、地域を挙げてのおもてなしの工夫が感じられる。

15年4月より郡山～会津若松間で運行を開始した観光列車「フルーティアふくしま」は、「Fruit（果物）」と「Tea（お茶）」を組み合わせて命名された通り、「走るカフェ」をコンセプトに、全ての席がスイーツセット付きの旅行商品として販売されている。

観光列車化の動きは新幹線にも広がっている。山形新幹線は14年7月よりリゾート新幹線「とれいゆ つばさ」の運行を開始した。「食」「温泉」「歴史・文化」「自然」をテーマに、温泉街を散策するような楽しみをコンセプトとし、お座敷、湯上がりラウンジ、足湯などが設備されている。

●トワイライトエクスプレス廃止、北斗星臨時化

観光列車の新規運行が盛んな一方、トワイライトエクスプレスが廃止、北斗星は臨時化されるなど、夜行列車の減退傾向が顕著である。

●周年記念と関連イベントなど

14年度は各社周年記念に合わせ、車両や施設を活用した体験イベントや各種キャンペーンなどが実施された（表Ⅲ-2-1-2）。

●風景としての鉄道の評価

14年7月には、富士市東部を走る岳南電車が「日本夜景遺産」に認定された。「日本夜景遺産」は一般社団法人夜景観

光コンベンション・ビューロー（東京都）が、日本各地の夜景の掘り起こしと、観光対象としての存在発信を目的に認定しているもので、これまでに全国170カ所余りが認定されている。路線、車体、駅舎を含めた鉄道全体としての認定は岳南電車が初となる。

（清水雄一）

表Ⅲ-2-1-2　主な周年路線と関連事項

路線名	開業年月（周年）	関連事項
三岐鉄道北勢線	1914年4月（100周年）	100周年記念品（ロゴ入りノート、下敷き）を販売。
東武東上線	1914年5月（100周年）	セイジクリーム塗装を施したリバイバルカラー車両を小川町～寄居間および坂戸～越生間にて運行。
東京モノレール	1964年9月（50周年）	福岡を拠点にするアイドルグループHKT48を起用したPRキャンペーン「HKT48モノレール派宣言!」を展開。 歴代車両塗装を復活させた「ヒストリートレイン」を運行。
東海道新幹線	1964年10月（50周年）	エクスプレス予約にて「こだま」号のグリーン車の割引料金「こだま☆楽旅IC早特」を実施。
予土線	1974年3月（40周年）	全線開通40周年を記念して14年3月から「鉄道ホビートレイン」（宇和島～窪川）の運行を開始。
北九州モノレール	1985年1月（30周年）	北九州モノレールの年表が書かれた台紙に入った記念乗車券を発売。
南海電鉄空港線	1994年6月（20周年）	人気アニメとタイアップした「機動戦士ガンダムUC×特急ラピート」を期間限定で運行。
智頭急行智頭線	1994年12月（20周年）	沿線施設の割引が付いた1日フリー切符を販売。
愛知高速交通（リニモ）	2005年3月（10周年）	リニアモーターの仕組みが学べるサイエンスショーや洗車機通過体験等、「リニモ開業10周年感謝祭」を開催。

資料：各社ホームページをもとに（公財）日本交通公社作成